

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ③ ～私たちは立場を越え本気で取り組んでいる～

写真は

1991年11月19日

徳島県中学校

同和教育研究大会

(板野中学校3年B組

公開授業)

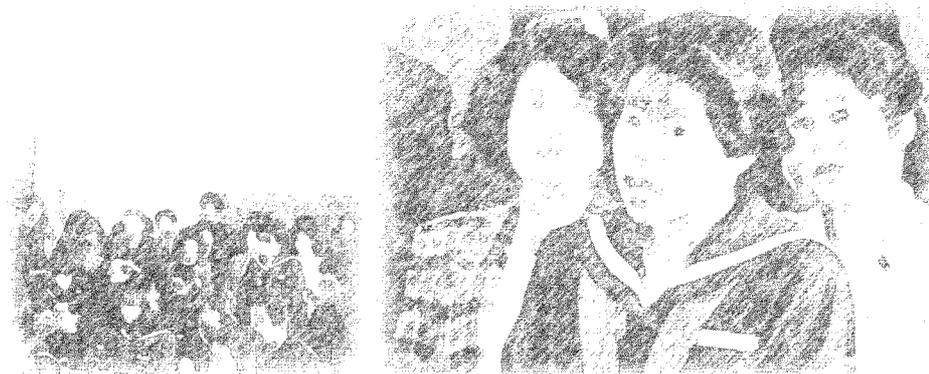
第21回徳島県中学校

同和教育研究大会公開授業の日

板野中学校を会場校に第21回徳島県中学校同和教育研究大会(以下・県中同研)は、1991年11月19日に開催された。第25回全日本中学校道徳教育大会特別公開授業の思いを胸に、板野中学校3年B組の生徒たちは、待ち焦がれるようにしてその日を迎えた。生徒Y・Iは、「先生、教室だったら、いくら先生方が来てくられても、100人ぐらいしか見ることはできんでしょう。3Bだけ特別に体育館を使わせてもらったらどうですか。」と問いを語ったが、Y・Iだけでなく、生徒たち一人ひとりに、これまでの取り組みをたくさんの参観者に、全力で伝えたいという思いが広がっていった。

そして、授業は、教室に溢れる来場者に、本心を語り合う同和問題学習の重要性を訴える時間となった。

授業は、2年間の全体学習の成果を踏まえ、『水平社宣言讃歌』(西口敏夫)について語りあった。『水平社宣言讃歌』に寄せて部落問題学習について生徒の思いが、次から次へと語られていった。本当の思いを語り合う「よろこび」、仲間と心を通わせていく「よろこび」を生徒一人ひとりが、確かめ、共有していく場であった。



「みんなでこの学習に必死に取り組んでいる」というS・Eの語り

「全道研の終わった時に、『先生が部落の人だからあんなに頑張れて、あんな授業ができるというような囁きをした先生がいた』と先生の友だちから聞いたと言っていましたけど、私たちの中には部落に生まれなかった子もいるし、部落に生まれて悩んでいる子もいるけど、そんなこと関係なしにみんなでこの学習に必死に取り組んでいるのに、部落に生まれなかった子は、部落問題をうわべだけで取り組んでいるように言われたみたいで、それを聞いたときすごくやさしかったです。」

S・Eの語り次第々と発言が重ねられていく。そして、生徒S・Nが、自らの怒りをぶつけるように語り出した。

「本当のことを知らないでずっと生きていくのは、人間としてかわいそうだ」というS・Nの語り

「私たちがあれだけ一生懸命頑張って発表して、周りの人とかがものすごい拍手をくれて胸がいっぱいになっていたあの途中で、そんな人がおったと思ったらすごいショックでした。その人たちはちゃんと部落問題について学んでいなくて、学ぶ環境も周りになかったと思います。私たちから言わせてみたら、その人は無関心な人というのもあるけど、将来部落問題に対する本当のことを知らないでずっと生きていくのは人間として惨めで、ある意味で人間としてかわいそうだと思います。」

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ共同代表 森口 健司

